

〔科目名〕 経営演習Ⅰ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 藤沼 司						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 「人間協働とは何か」をめぐる、経営学および隣接諸分野を含めて、基本的なところから考える							
〔演習内容〕 経営学は「人間協働の学」である、と言われることがあります。そもそも人間は、なぜ「協働」するのでしょうか？ また、なぜ「協働」が成立可能なのでしょうか？ ゼミでは、こうした基本的な問いについて、みなさんと一緒に考えたいと思います。 こうした問いと向き合うためには、経営学(特にマネジメント論および組織論)にとどまらず、広範な隣接諸分野(例えば、進化論、人類学、コミュニケーション論、心理学、倫理学等)との「知的協働」も必要となります。そのため本ゼミでは、マネジメント論や組織論をはじめ、隣接諸分野の基礎も含めて学びたいと思います。テキストを1冊決め、輪読し、その内容についてみんなで議論したいと思います。場合によっては、グループ研究を行うこともあり得ます。 その他、例年、ゼミ合宿を年2回(夏と冬)実施しています。実施時期は、夏合宿は9月上～中旬、冬合宿は2月最初の土日、ということが多いです。また、他大学(7大学)との合同ゼミ発表会(オンライン)も実施しています。こうした各種イベントの企画・運営を通じて、学んだ知識の修得を目指します。オプションとして、地域に飛び出して活動する企画運営も考えています。							
〔科目の到達目標〕 輪読等を通じて、さまざまな専門用語(概念)や理論を学んでいきます。そうした多様な概念や理論の意味内容、そしてそれらの使用方法を十分に理解することが 評価(C) となります。最低限の理解が 評価(D) です。 上記したそうした概念を、社会で起こっている経営上の諸問題に当てはめて考えられるようになるのが 評価(B) です。これは演習で学習した内容の例を、自分自身で探し出せるようになる、ということでもあります。 経営上の諸問題に対する答えが1つであることは、実は、全くとっていいほど、ありません。そのような問題を経営学上の概念を用いて、多様な角度から考えたうえで、自分なりの考えを導けるようになることが 評価(A) です。 その他、適宜レポートの提出を求めます。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 自ら考え、自ら調べ、自ら行動する主体性							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価方法は以下の諸点を考慮し、総合的に判断する。以下①～③は「優先順位の高低」を意味しない。 ① 出席状況、② 演習活動への貢献度(発言、活動など)、③ 各種レポート							
〔教科書等〕 適宜、示します。							
〔実務経歴〕 該当なし							

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
4 月 ～ 8 月	・テキストの輪読 ・ケースに基づくディスカッション ・合同ゼミ合宿に向けたグループワークなど
9 月	・合同ゼミ合宿(予定)
9 月 ～ 1 月	・テキストの輪読 ・ケースに基づくディスカッション ・冬合宿に向けたグループワークなど
2 月	・冬合宿(予定) ・合同ゼミ発表会(予定) ※ 時期が変更される可能性あり。
試 験	・各種レポート